令和８年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立保谷第一小学校

全国学力学習状況調査（小学校第6学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	2二 【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する。	46.0% （都51.3%） −5.3pt	・正答率が都平均を上回った問題は、1一【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する問題である。相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみている。この結果から、相手意識をもち、話の中心や理由、事例とのつながりを考えながら、話す内容を整理する力が比較的身に付いていると考えられる。 ・1二（3）の問題について、相手を意識した表現活動により、音声の工夫と効果を捉える力が身に付いていると考えられる。	○最も正答率が低かった問題については、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。 ○下線部に続く文を選択する問題では、考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することに課題があると考えられる。 ○傍線部についてどのように整理したのかを説明したものを選択する問題では、複数の情報を関連付け、情報同士の関係を捉えて整理する力に課題があると考えられる。 ○資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる問題では、動画の内容や表現の工夫と、その効果を関連付けて捉える力に課題があると考えられる。
	2四 【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。	34.0% （都37.2%） −3.2pt		
	3二 傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する。	59.0% （都62.0%） −3.0pt		
	1二（1）【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する。	62.0% （都64.9%） −2.9pt		
算数	3（2） 二つの小数のどちらが5に近いかを判断するために、6.37－5と5－3.76を計算する。	54.0% （都67.0%） −13pt	・正答率が都平均を大きく上回った（＋8.2%）問題は、2（1）74291の百の位の数を四捨五入して、千のくらいまでの概数で表したものを選ぶ問題である。数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみている。 また、3(1)1、5、9の3枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く問題は、都平均より＋1.5%上回った。この問題では、小数が整数と同じ十進法位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみている。 これらの結果から、位の数を意識した考え方や数の構成が身に付いていると考えられる。	○最も正答率が低かった問題は、小数の引き算、繰り下がりの基本的な計算問題である。一の位、小数第一位、小数第二位にそれぞれ位を合わせ、繰り下がりを確実に計算することが課題である。 ○次に低かった問題は、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題である。示された二次元の表の二つの観点を捉え、各欄の意味を理解できていないことが課題である。 ○次に正答率が低かったのは、基準量・比較量・割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題である。ここでは、比較量である赤いテープの長さが、基準量である白いテープの1.5倍であることから、例えば、基準量が目盛り四つ分のとき、比較量は4×1.5＝6で目盛り六つ分であることをとらえることが必要である。1.5倍を、基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えていることなどが課題である。
	4（3） 二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。	18.0% （都26.5%） −8.5pt		
	2（4） 赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。	38.0% （都46.0%） −8pt		
	3（4） 5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ。	69.0% （都76.1%） −7.1pt		